

SUGI-J

SAS USERS GROUP

2003

INTERNATIONAL JAPAN



ユーザーの交流が、 新しいインスピレーションを生み出す。

SASユーザーが主役の、毎年恒例のイベント「第22回日本SASユーザー会総会および研究発表会 (SUGI-J 2003)」が、7月31日、8月1日、東京有明で開催された。SUGI-J 2003には全国各地からのべ1,000名以上が参加。論文発表を中心に、フォーマルデモンストレーション、特別セッション、懇親会など多数のプログラムが行なわれ、大きな盛り上がりを見せた。

◎ SAS活用のノウハウを共有する場として

SUGI-J。それは、SASユーザーによる日々の研究成果の発表の場であり、情報交換の場でもある。特に、データ活用のスキルをさらに高めたいという向上心あふれるSASユーザーにとって、SUGI-Jは情報獲得へのまたとないチャンスだろう。SASに関する先進の技術やソリューションが紹介されるフォーマルデモンストレーション。業界のトレンドや最新情報がディスカッションされる特別セッション、そして、ユーザーのアイデアやデータ活用のテクニックが満載の論文発表。SUGI-Jには、たとえ分野が違ったとしても、SASを応用するためのヒントやインスピレーションが得られるという大きな魅力が詰まっているのだ。オープニングセッションにおいて、日本SASユーザー会 代表世話人の大橋靖雄教授(東京大学)は、次のように語っている。「今年は50本近くの論文が寄せられました。医薬の分野を中心にどれも理論的に優れた内容であり、例年以上にレベルが高くなっていると感じます」。このハイレベルな論文の中から最優秀論文賞を獲得した伊藤要二氏(アストラゼネカ株式会社)は、表彰式が行なわれたプレナリーセッションにて、「発表したテクニックを、多数のSASユーザーに使っていただければ光栄です」と受賞の言葉を述べた。初日夕方からは、懇親会が行なわれ、約300人を超えるSASユーザーが参加。互いの親睦を深め、情報を共有する最高の場となった。

◎ SASから発表された新しいソリューションとアーキテクチャに期待

ユーザー同士の交流会であることはもちろん、SUGI-Jは、ユーザーとSASジャパンとを結ぶ場でもある。SAS International アジア太平洋地域 副社長のPhil Beniacは、プレナリーセッションで「SASという企業のユニークネスを支えているのは、高い技術を持つ日本のユーザーの皆さまです」とメッセージを贈った。同セッションではさらにSAS International アジア太平洋ラテンアメリカ地域チーフテクノロジーオフィサー Bill Gibsonが、来年リリース予定であるSAS 9.1のアーキテクチャについて発表。あらゆるユーザーニーズに対応したさまざまなインターフェイスが設定されていることなど、その特長や魅力を日本のSASユーザーに向けて熱く紹介した。また、医薬特別セッションやフォーマルデモンストレーションでは、SASの新しい医薬ソリューション、SAS Scientific Discovery SolutionsとSAS Drug Developmentも紹介された。イノベーションのハードルが高く、開発コストもますます大きくなっている現状を打開するためのパワフルなソリューションとして、ユーザーから大きな注目を集めた。SASのソリューションとSASユーザーのテクニックがともに高まりシナジーを生み出すことで、今後、さらに研ぎ澄まされたインテリジェンスが創造されていくに違いない。